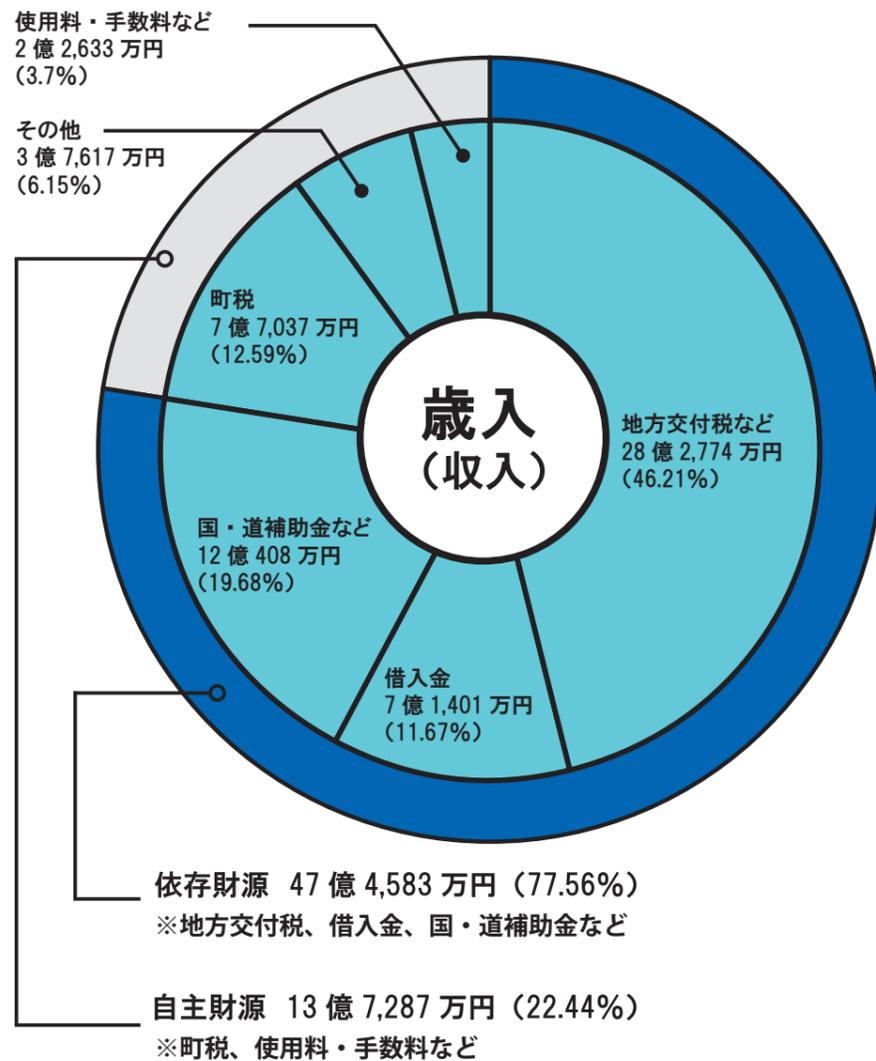


決算を報告します

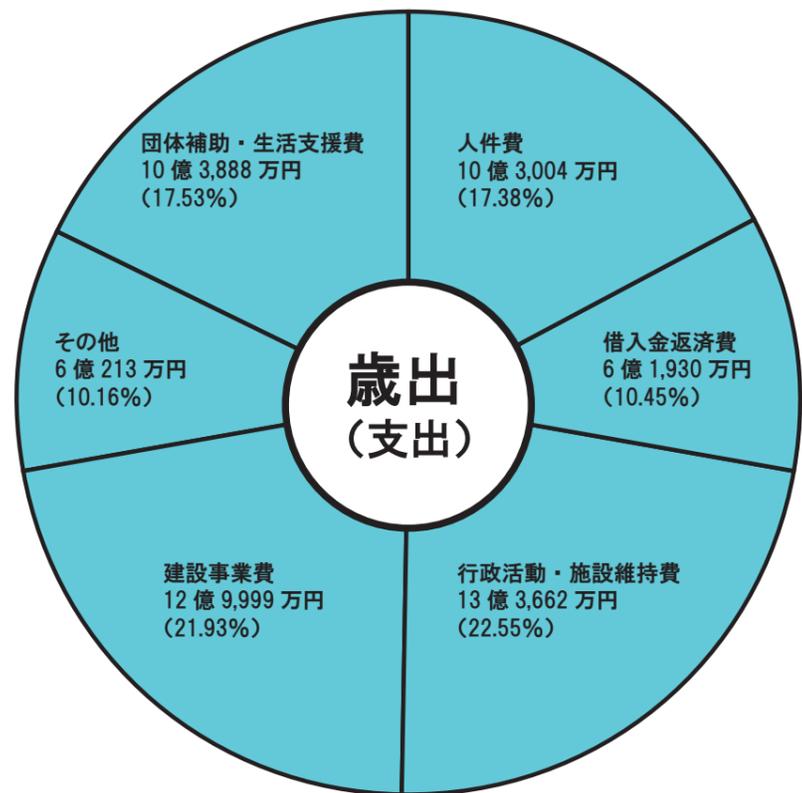
町では、皆さんが納めた貴重な税金がどのように使われているのかを知っていただくために、予算・決算などを基に財政状況を公表しています。今回は、8月議会で承認された平成28年度決算の概要についてお知らせします。

一般会計【歳入】 61億1,870万円



基金と起債 ○基金 (貯金) 53億7,564万円 ○起債 (借金) 87億7,085円

一般会計【歳出】 59億2,696万円



- 【人件費】**
職員給与・議会議員報酬など
- 【借入金返済費】**
大きな事業を行うために借り入れたお金の返済
- 【行政活動・施設維持費】**
一般行政活動を行う経費や施設などの整備に使った維持的経費
- 【建設事業費】**
道路、公共施設、産業基盤などの整備に使った投資的経費
- 【その他】**
一般会計から特別会計に繰り出したお金、基金の積立など
- 【団体補助・生活支援費】**
団体への負担金や補助金、高齢者・障がい者への生活支援費

特別会計決算			
会計項目	歳入 (収入)	歳出 (支出)	差引額
簡易水道	2億8,616万円	2億7,471万円	1,145万円
国民健康保険	9億6,472万円	9億5,192万円	1,280万円
公共下水道	2億1,034万円	1億9,934万円	1,100万円
介護保険	5億3,334万円	5億1,235万円	2,099万円
介護サービス	2億2,929万円	2億2,181万円	748万円
後期高齢者医療	8,329万円	8,283万円	46万円



★平成28年度決算を町民一人当たりになると
※平成29年3月末人口・5,270人
※特別会計決算額を含めて計算しています。

一般会計財産運営状況の概要

わ が国の経済情勢は、雇用・所得環境に改善がみられ、緩やかな回復基調にあります。個人消費の回復に地域間でのばらつきや生産活動の停滞が見られるなど、地方における経済環境はまだまだ厳しい状況にあります。

このような中、国の平成28年度予算は、少子高齢化の構造的な問題に正面から取り組むことにより、将来への安全を確保し、誰もが生きがいを持って充実した生活を送ることができ、「一億総活躍社会」の実現に向けた取組みを図るため、消費や投資の拡大に結びつく経済の好循環の拡大、イノベーション等を通じた生産性の向上や供給面の取組により潜在的な供給力の強化、人口減少と地域経済の縮小の悪循環の連鎖に歯止めをかける、まち・ひと・しごと創生を目指すとする一方で、「経済・財政再生計画」に基づく本格的な歳出改革の取組を強化するとともに、施策の優先順位を洗い出し、無駄を徹底して排除しつつ予算の重点化を図るとする基本的な考えの基に編成されました。

このような状況下において、本町における平成28年度予算編成においては、第4期佐呂間町総合計画並びに佐呂間町地域創生総合戦略の目指す本町の自主的・主体的なまちづくりを展開していくため、将来を見据えた計画的な予算となるようコスト意識を持ち、限られた財源のなかで最大の事務事業効果を発揮できるように、国や道などの補助制度の積極的な活用と交付税措置が見込まれる有利な起債による財源確保に努め、健全な財政運営を進める一方で、町長の公約を踏まえた独自施策の積極的な展開ができる予算編成を行いました。

本

年度の地方交付税総額は、臨時財政対策債を含め27億4,778万円(前年度比95.4%)で、前年度と比較して1億3,331万円の減額となりましたが、義務的経費のより一層の抑制はもとより、補助金や町債等による財源確保に努めながら、土地改良や町有林整備事業など第一次産業基盤整備をはじめ、簡易水道拡張や町道改良舗装事業などのインフラ確保事業、町民センター改修工事や若佐小学校改修工事などの教育関連施設整備にも取り組まれました。

この結果、当初予算で見込んでいた財源補てん基金繰入金金はすべて減額し、最終的な余剰金として財政調整基金へ2億6,600万円の積立てを行いました。前年度繰越明許費を含めた最終予算額を61億1,274万円(前年度と比較して1億4,380万円の増額)としました。決算額については歳入決算額61億1,870万円、歳出決算額59億2,696万円となり、翌年度繰越財源464万円を差し引いた実質収支差引額は1億8,710万円となりました。